

平成 28 年度第 4 回 京都市市民参加推進フォーラム 摘録

■開催日時：平成 29 年 1 月 26 日（木） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分

■開催場所：職員会館かもがわ 2 階 大会議室

■議題：

- (1) 京都市市民参加推進計画の推進に関する成果や課題等の分析
 - 1 部会毎に、各事業の分析結果について議論
 - 2 全体共有
- (2) 「計画を着実に進めるための推進体制」の進捗状況について
- (3) 平成 28 年度第 2 回市民公募委員サロンの開催について

■報告事項：

- (1) 新たに設置された附属機関等に係る協議結果について
- (2) 市民参加に関係する新しい事業や取組について

■公開・非公開の別：公開

■出席者

市民参加推進フォーラム委員 9 名

荒木委員，太田委員，川島副座長，芝原委員，杉山委員，津田委員，樋口委員，壬生座長，吉川委員

【傍聴者】

1 人

【特記事項】

動画共有サイト YouTube（ユーチューブ）による会議のインターネット中継を実施

【議事内容】

1 開 会

<事務局>

定刻となったので、ただいまから、「京都市市民参加推進フォーラム」平成 28 年度第 4 回会議を開催する。

本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

私は、本日の進行を務める、京都市総合企画局総合政策室創生戦略・市民協働推進部長の松野です。

市民参加推進フォーラムは、市民参加の推進に関する事項について、市長の諮問に応じ、調査、御審議いただくとともに、当該事項について御意見をいただく機関として設置している附属機関である。

はじめに、委員の欠席について報告させていただく。内田委員，兼松委員，桜井委員，竹内副座長，松下委員，宮西委員が御都合により欠席されている。現時点で、委員総数15名中9名の委員が御出席ということで、出席委員が過半数を超えており、本会議は成立していることを報告する。

なお、本日の会議については、公開とするとともに、インターネット上の動画配信サービスである「ユーチューブ」を利用した生中継を行うので、御了承いただきたい。

以後の議事については、壬生座長にお願いする。

<壬生座長>

本日も、議事が多く、限られた時間で進めなければならないが、しっかりと議論をしていきたいので、御協力をお願いしたい。まずは、本日の議題及び報告の流れについて事務局から説明をお願いする。

<事務局>

本日は、議題が3つと、報告事項が2つある。

議題は、1つ目が「市民参加推進計画の推進に関する成果や課題の分析」である。前回の会議で、対象事業の担当部署にヒアリングをしていただいた内容について、取りまとめるための議論をしていただく。2つ目は、「計画を着実に進めるための推進体制」の進捗状況についてであり、第2期市民参加推進計画改定版の第5章に掲げる推進体制の進捗状況について御議論いただく。3つ目は、「平成28年度第2回市民公募委員サロンの開催について」である。

報告事項は、「新たに設置された附属機関等に係る協議結果について」と、「市民参加に関係する新しい事業や取組について」の2つである。

2 議題

議題（1）京都市市民参加推進計画の推進に関する成果や課題等の分析

<壬生座長>

では、「議題（1）京都市市民参加推進計画の推進に関する成果や課題等の分析」について、資料1を事務局から説明をお願いする。

<事務局>

まず、「資料1-2」を御覧いただきたい。これが、前回のヒアリングを踏まえて、作成した分析結果の本編となる。この資料は文字が多いため、別資料として、庁内の各部署に

向けて伝えたいポイントを簡潔に一般化してまとめたものが「資料1-1」であり、市民の皆様に分りやすく発信する際の資料のイメージとして、「資料1-3」としている。

この後、各部会に別れて「資料1-2」を中心に議論いただくが、最終的にこの3種類の体裁でまとめることについて、まずは御意見をお伺いしたい。

<壬生座長>

「資料1-2」を作っていたのだが、ボリュームもあり、なかなか読もうと思っていただけの方も少ないのではないかとということから、まずは職員の方に簡単に見ていただけるものとして「資料1-1」を作成してもらった。また、市民の方に説明するとなると、職員に向けたものとは視点も違うということで、「資料1-3」を準備しようということで、事務局と調整をさせていただいた。

このような資料のまとめ方について、何か御意見や御質問があればお受けしたい。

<川島副座長>

印象であるが、この資料を見たときに、「景観市民会議」のほうが事業概要の説明が長いように見える。「みっけ隊アプリ」とボリュームをそろえた方が良いのではないか。

<壬生座長>

「景観市民会議」に関しては、前回のヒアリングの中で、事業対象となる会議だけではなく、いろいろな事業についても話が展開したので、それを全部まとめたところボリュームが大きくなっている。この部分は、今、川島副座長に御指摘いただいたように、もうすこしコンパクトにしたほうが読みやすいかもしれない。

<事務局>

削れる部分については、検討をしていきたい。

<壬生座長>

よろしくお願ひしたい。他にお気づきの点はあるか。

<芝原委員>

資料に出てくる「その他」という表現だが、確かにその他の内容であるが、他にももう少し良い表現があるのではないか。

<壬生座長>

確かに、そのとおりなので、「その他」という点についてどのようにまとめるのかについては、事務局と相談・検討したい。

<樋口委員>

「ポイント」が、みつけ隊アプリでは5つ、景観市民会議では3つあるのだが、ポイントの順序に何か意図はあるか。例えば、「第2期京都市市民参加推進計画改定版」で示す方針等の順番になっているだとか、前面に押したいものが先に来ているだとかというものはあるのか。

「資料1-3」は、イメージ図とのことであるが、ポイントのそれぞれに、推進計画ではどの部分にあたるのかがアイコンで示されている。この順序については何か意味合いがあるのかどうかを知りたい。

<事務局>

例えば、みつけ隊アプリでいえば、ポイント1は事業に至った経緯、ポイント2、3はワークショップの内容という、実際の事業の流れに沿った順番である。

<樋口委員>

その流れだと、事業の経緯を理解している人ならば理解できるかもしれないが、例えば、「資料1-3」だけ見る人にとっては、把握がでるのかどうか気になった。このイメージ図では、パッと見たときに、ポイントの順番と、基本方針のアイコンが示す番号が互い違いになっているので、何か意味があるのかと単純に疑問に思い、質問した。

ただ、事業の流れの順です、ということならば、それはそうだなと理解できる。

<壬生座長>

「資料1-2」では、事業の流れに沿って並べるのが分かりやすい。それを、「資料1-1」や「資料1-3」に反映させていくときにどのような並べ方にすればよいかということについては、検討の余地がある。

<壬生座長>

では、一旦ここで、部会に別れ、各事業の分析の内容について、御議論をお願いしたい。

=====

(部会へ別れ、各事業について、分析の内容や今後の公表の方針について議論。内容は部会の摘録を参照のこと。)

=====

< 壬生座長 >

それぞれの部会の議論について、御報告をお願いします。

(第1部会は芝原委員が、第2部会は太田委員が報告をした。)

略

< 壬生座長 >

では、ここまでの議論を通して、全体で共有しておくことや、御質問・御意見などがあればお願いします。

< 川島副座長 >

先ほどの報告を踏まえると、2つの部会とも、「ポイント」ではなく「プロセス」と記載した方がよいのか。

< 荒木委員 >

景観市民会議の事業分析については、確かにプロセスの順序で記載されていたが、内容はポイントなので、「ポイント」とした方が良い。

< 壬生座長 >

事務局に聞きたい。今回の会議では、特に第2部会（景観市民会議）では、出席者が3名だったが、事務局から、他の委員にも御意見などをいただくような働きかけをするのか。

< 事務局 >

事前には、欠席の委員にも意見を出していただけるようお願いしたが、御意見を出していただいた委員は少なかった。この後、御欠席の委員には、御意見があるかどうかについて再度確認をしたい。

< 壬生座長 >

3人だけの意見で方針が決まるというのは、あまり良い状況だとは言えないので、お手数をかけるが、お願いしたい。

議題（2）「計画を着実に進めるための推進体制」の進捗状況について

< 壬生座長 >

次に、資料2「議題（2）「計画を着実に進めるための推進体制」の進捗状況について」の説明を事務局からお願いします。

<事務局>

(資料2について説明)

略

<壬生座長>

この内容について、御質問や御意見があれば、発言をお願いしたい。

<芝原委員>

P4からP5の中で、区役所の取組が出てきている。ここに記載されていない区もあるが、それは、こういった取組が無いから、ここに記載が無いということなのか。

<事務局>

京都市全体として、全ての職場で、市民対応の研修をするようにということになっており、実施している。ここに載せているものは、その職員研修とは別に、独自の取組をしているものを記載している。

<芝原委員>

独自の取組をしているものはすべて載っているということか。

<事務局>

そのとおりである。

<樋口委員>

この資料の「実績」に対しての「評価」はどのようにされるのか。

例えば、P1の取組例1では、今年度の実績の欄には「市民参加の観点で明確には読み取りにくい。⇒7局区等」と書かれており、来年度の予定の欄には「各局区等に一層働きかけを行う。」と書かれている。実績に対して、「評価」があってから、次に対してどう手を打つか、という観点が必要なのではないか。P6の「市民対応研修の充実」という取組では、今年度は「～受講者の満足度は高かった。」ということで、それに対するアンサーとして、来年度は「前年同様に～実施する予定。」となっており、こちらは理解できる。しかし、例えば、他の項目でも、「市民協働ファシリテーション研修」については、今年は実施されていて、来年度は「研修内容の充実予定」と書いてある。これは、充実していない内容のものを、今年やった、というように読めるが、どうなのか。始めの例でいえば、「一層働きかけを」の「一層」というのは、どういう意味なのかと思う。

<事務局>

資料のつくりの問題もあるかと思う。それぞれの所属で、評価は行っているはずだが、それが資料に表れていたり、いなかったりする。

個別には、まず、P 1の取組例1「局の取組方針」は、まさに当方、市民協働推進担当が受け持っている取組であり、当方がどう評価をしているかということになる。この取組は、今回が初年度だったこともあり、ペーパーでの依頼を各局に実施した。その結果、ペーパーだけでは不十分だった面がある。来年度は、依頼文の文言を強めに変えたい。また、ここで「明確に読み取りにくい」とした7局区については、電話などでも依頼をしていきたいと考えている。

もう一つのP 3の「市民協働ファシリテーション研修」については、来年度の予定として研修内容の充実と書いているが、実はP 1の取組例2と連動しており、これも市民協働推進担当が実施するものである。来年度からは、「市民協働ファシリテーション研修」を充実させたいので、受講した職員を「市民協働ファシリテーター」として各職場に配置して、市民参加推進を担う職員として位置付けることを検討している。研修の部署の人事課と、市民協働推進担当との共同で進めていこうとしているものである。

<樋口委員>

そうであれば、ここでは予定の欄に、実績に対する「評価」というのが表記されていることになる。本来は、「実績」に対し「評価」があって、「来年度の予定」という形になるのではないか。P 6の、市民対応の研修の充実の取組についての書き方のほうが、読みやすい。

そういったことを読み取れるような記載になっていないと、もったいないと感じる。

<芝田委員>

「平成28年度実施」という所を、「平成28年度実施と評価」という書き方にすると分かりやすいのではないか。

<樋口委員>

不十分だった点を、来年度にはこう変えますとか、こういった成果があったので、来年度はもっとブラッシュアップしていきますとかということが書かれていた方が、まとめ方として良いのではないか。その部分を見れば、課題がどれだったかが分かりやすい。

<川島副座長>

「実績と評価」ということであれば、何ををもって評価の指標とするのか、評価指標については気になる。

例えば、研修であれば、何回実施したかということがアウトプットとして出てきているが、来年は実施回数を増やすのか、実施する部局を増やすのか、何かしらの目標がないと、

「継続実施」と言うだけでは、どう継続をしたのかが分らない。

この表が、進捗について「管理」を見るつものものなのか、「報告」をするためのものなのかという目的によって、書きぶりは変わってくる。今ここにある資料は、実施の「報告」であり、「管理」にはなっていない。「管理」をするのであれば、何をもって「評価」をするのかという指標が必要となるが、今はその観点が抜けているので、それをどうしたらよいか。

「報告」に留めるのか、「進捗管理」ということまでを含めてもう少し書きこむのか。事務局としてはどう考えているかを聞きたい。

<事務局>

各所属では、それぞれに、どのような目標設定をしてどうしていくのかという方向性がある。その目標設定等について、例えば市民協働推進担当が、市民参加の観点から個別に意見するという事は、難しい面がある。

ただし、記載された内容について、もう少し踏み込んで書きこめる部分はある。

<川島副座長>

これは希望だが、「研修を行った」だけではなく、それによって「どう変わったか」ということを捉えることが大切である。受講者の満足度、受けて良かったかどうか、ということではなく、どう自分が変わったかとか、どのように自分の職務に活かしたかということも含め、アンケートを取るようなことが出来たら、そこは載せてほしい。

<太田委員>

「お客様の声」といったような、市民のレスポンスを受け取る機能は、役所にはあるのか。

研修を受けて、「伝える力」を高めたりした結果、わたしたち市民が相談しやすくなったとか、対応が良くなったというような、市民の声をくみ取るシステムのようなものはあるか。

<事務局>

研修と連動しているかどうかは別として、「窓口総合アンケート」として、区役所などの市民の方が来る窓口では、定期的なアンケートを実施している。

また、いくつかの職場に、市民の方に視察していただいて、評価していただくということもある。

<樋口委員>

この議題である「計画を着実に進めるための推進体制」の進捗状況については、年度ご

との経過を追うことにより、5年後の計画改定の際に参考とするという目的がある。この5年間の変化が見えるように、表の作りを工夫しておく必要がある。例えば、参加者が増えているのか減っているのか、と言うようなことが後で分かるような作りしておくことが大事である。

<壬生座長>

その工夫については、次に調査をする時に、きちんと検討をしていただきたい。

議題（3）平成28年度第2回市民公募委員サロンの開催について

<壬生座長>

では次に、資料3「(3)平成28年度第2回市民公募委員サロンの開催について(案)」について、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

(資料3について説明)

略

(補足)

資料3の5「内容」について、ここでは、第2部に「社会をつくる!」という仮タイトルで、ゲストをお呼びして、広く市政参加に関して学んでいただける機会としようと考えていたものを記載している。このことについては、座長・副座長と御相談させていただいたところ、第1部のワークショップにしっかり時間をとり、内容を充実させて、第2部は取りやめてはどうかということになりつつある。例えば、外部のゲストではなく、今回のサロン参加者の中から、年度末で委員の任期が終わる方に登壇していただき、質疑応答形式等で議論を重ねていただくということもできるのではないかと考えている。

第1回のサロン後のアンケートでも、ワークショップについては、「十分に意見交換できる時間がなかった」、「もっと交流をしたかった」という意見が見受けられた。

このあたりのあり方については、皆様の御意見をお伺いしたい。

<壬生座長>

念のため確認であるが、今年度2回目となるこの公募委員サロンは、年度末に開催するものであるので、1年間の活動を振り返るものとなる。また、次年度以降の市民公募委員としての活動や、その他の市民参加の活動のための学びや気づきを得てもらうことを目的とするということで、考えている。

内容については、まだ案の段階なので、もっと盛り上がる仕掛け等のアイデアを含めて意見を出していただきたい。

<吉川委員>

前は、参加された方について、どのような附属機関等に所属しているかということも含めて、リストの配布などをしたのか。

<事務局>

前は、主催者としてフォーラム委員が持つ手持ちの資料としてリストを作った。参加者には配布していない。

<吉川委員>

前回のサロンでは、テーブルごとに話す際、参加者が一人ずつ、自分の所属する附属機関等についての説明をするだけに時間が割かれてもったいないと感じた。ある程度、事前にお互いについて知識を持ったうえで話せるようにした方が良い。

<壬生座長>

簡単に、誰がどの附属機関に所属しているのかが分かるような資料があると良い。

<樋口委員>

事務局としては、参加者の人数はどの程度になるとイメージしているのか。動員の目標はあるのか。それによって、場所や、ワークショップの作り方なども変わってくる。少人数で、たとえばテーブルが3つなのであれば、3ターンでみんなと話せるかもしれない。50人以上であるなら、そのようなことは物理的に無理である。

<事務局>

第1回公募委員サロンと同じ人数か、その時より対象となる公募委員の数は増えているので、もう少し多いといいかと考えている。

<樋口委員>

それでいくと、例えば、この、かもがわの大会議室（第1回サロンも同じ会議室利用）では、少しきつい。

<事務局>

確かに、第1回サロンでは、隣のテーブルの声が近かったりした。この会議室では少し小さいかもしれない。

<樋口委員>

先ほどの説明では、第2部として書いてある話題提供のパートについて、無くしてしま

おうかという話だったが、そもそも、第2部で具体的にどのような話をイメージしていたのかを知りたい。

<事務局>

附属機関等の委員は、年度末で任期が終わる方もおられるため、当初は、公募委員としての話に限らず、例えばパブリック・コメントや、ワークショップへの参加の手法もあることなど、「市民の市政参加」について、その意義などについても含めて、幅広い話をできたらいいのではと考えた。ただ、話題提供者としてどのような人をお願いするのかなどは、検討がしきれていない。

<樋口委員>

もし自分がワークショップの参加者だとしたら、来て、いきなり自分のことを話してくださいと言われるとつらいと感じた。

例えば、今回で任期を終了する委員も想定されているのであれば、次の公募委員をリクルートするようなことをやってみるのはどうか。まず「京都市ではこのような附属機関等でも委員を公募しています」というような情報提供を第1部で行い、その後、第2部をワークショップとして、「私はこのような附属機関等にいました」と話が出来れば、この年度末に任期が終わる方にとっては、また、別の附属機関等に興味を持って来年度に応募する動機づけになる。そういった、簡単な説明でもかまわないので、ワークショップの前には何かあったほうが良いのではないか。

<事務局>

仮に、第2部の話題提供者の話を書くようなパートが無く、ワークショップから始まるとしても、話をしやすくする仕掛けは全体としては必要と考えている。フォーラムの公募委員から話を始めてもらうということも考えている。

<樋口委員>

そういった仕掛けがあるならば、それでいい。私自身も、どのような附属機関等に公募委員が入っているのかといった事については、知りたいと思った。

<川島副座長>

前回の開催後に作成した「公募委員サロンだより」の裏面で、参加した市民公募委員のアンケートの「今後の開催にあたって」という御意見の中にも、どれだけの附属機関等があつて何名いるのかを教えてほしいという意見がある。1つずつ説明するのは時間がかかりすぎるが、一覧表にした資料が欲しい。

<壬生座長>

先ほど吉川委員に御指摘いただいた、お互いの附属機関等について事前の情報を得ておきたいということと併せて、資料が作成できるかと思う。

<川島副座長>

私の、前回の公募委員サロンの所感だが、場がやっと盛り上がってきてそろそろ話が始まるかという所で終わってしまい、話し合いの時間が少し消化不良だった。

今回のサロンは、年度末で、今所属する附属機関等の任期が終了する方もおられるということで、その方たちの経験とか知恵とか、そこでどう御自分が成長されたのかということと丁寧に関心したいという想いが強い。どこか違う所からゲストスピーカーを呼んでくるよりは、サロンに参加される委員の皆さんの中での話し合いの時間をゆっくりとりたい。

そこで、私から、第2部をカットしてもいいのではないかと、という意見を出させていたところである。

ただ、いきなりワークショップです、さあスタートです、ということではなく、なにかしら場をあたためるような工夫はあった方がいいので、それを前に挟んで、メインはあくまで参加者が平場で話し合う場ということにしたい。

どのように場をあたためるかというアイデアが欲しい。

<樋口委員>

ファシリテーション・グラフィックを入れてはどうか。

（注：ファシリテーション・グラフィック
ファシリテーションを行う時、「何について(議論の対象)を、どのように(議論の構造)話しているか」といった参加者の認識を一致させるために、発言を、ホワイトボードや模造紙などを使い、その場の参加者全員に見えるように記録・図式化していくこと。）

<事務局>

グループにわかれる時間が長かったらあまり意味がないかもしれない。効果的なようであれば入れたい。

<樋口委員>

場をあたためてもらっている部分を模式化してもらえたら、その後ワークショップに入った時に、対話が弾むと思う。

<事務局>

内容と併せて検討をしたい。

<吉川委員>

個人的な希望なのだが、第3部の交流会については、1000円でも参加費をいただいても、軽食やアルコールを出してもらえないか。そのようにするのは難しいのか。2時間の枠の中なので厳しいのなら、30分延長してでも、できないものか。

<事務局>

現実的には、ワークショップを行う施設で、アルコール可という場所があるのかという問題はある。他に、役所がやることとして、アルコールを出すというような設定が良いのかどうなのかということについては、今すぐ回答ができない。

<吉川委員>

第3部で、いきなり名刺交換といわれても、なかなか難しいのではと思った。

<川島副座長>

過去のサロンでサンドイッチが出ていたことはある。

<事務局>

会費をいただいて、サンドイッチを出していたこともある。そのような事は可能ではある。前回は、せっかく参加をしていただくのだからということで、会費はやめて、少しお菓子を出そうということで調整をした。何か食べ物がある方が交流しやすいとは考えている。

<川島副座長>

開催の時間帯も、夕方から夜にかけてのタイミングであるし。

<壬生座長>

場所のことと、アルコールについてはどうかという問題はあるが、前向きに検討をしたい。

<川島副座長>

市民公募委員の方の意見を聞きたい。

<太田委員>

会費を取ったときの参加人数と、取らなかった時の参加人数の差はあるのか。

<事務局>

前回のサロンは、会費は取っておらず、過去最高の参加人数だった。ただし、その要因が、参加費を取らなかったからなのか、他の要因があったのかということまではわからない。

それまでは、300円ぐらいの参加費をいただいていた。過去には、食のことを考える市民グループの方にお願ひして作ってもらうといった、市民協働的な手法を取ったこともあったようだ。

<樋口委員>

3年前は、市販のサンドイッチだった。

<壬生座長>

今回のサロンの周知を始めるのはいつごろになるか。

<事務局>

前回のよう、概略さえ決まれば、参加対象となる方へまず日程だけでも周知するように各附属機関等の所管課に依頼できる。そのようなやり方で、早めに周知はしたい。チラシ等での詳しい呼びかけは、1カ月ぐらい前にできればよいかと考えている。どのような内容のことをやるのかと言う点は周知をする必要がある。

今、ここまでの議論で、2部はカットして、1部を中心にし、冒頭ではチェックインとして、場を温める仕掛けを考えるということまで決まった。

あとは、参加費をいただいて軽食を充てるということでもいいのかどうか、いただくのであればいくりに設定するのかということをお場で検討していただきたい。

<太田委員>

一度参加した立場としては、前回ちょっと軽食があったほうがありがたいなと思った。けれども、軽食があった方がいいというのは、参加してみて初めてわかるものであって、全く参加したことが無いものとしたら、チラシに書かれるのが「無料」と「有料」とでは、ニュアンスが変わってくるのではないか。

「無料」と書くことで、「無料だったら、時間もあるし行ってみようかな」と思う人もいるのかなと思うので、難しいところだ。

<事務局>

お菓子ぐらいであれば経費から支出はできる。軽食となると、役所の経費で出すことが適当かどうか、判断が必要となる。

<樋口委員>

交流会を、公募委員サロンの場でする必要はないのでは。有志で、行政から切り離れたところで懇親会をやりますという内容にできないか。

その方が、希望者にとっても参加しやすい懇親会になるのではないか。サロンの参加者には、あらかじめ案内しておいて、当日参加の申し出も可としておけばよい。会場も分けて行ったほうが、割り切って参加ができる。

もしワークショップも食事付きの交流会も一緒にしようとする、例えば、会場のレイアウトをどうするのかということもセットで考える必要があり、やりにくい。

<壬生座長>

その有志の交流会は、どのように準備しましょう。

<川島副座長>

申し込みの際に、懇親会の参加希望欄を作って○をつけてもらえばだいたい的人数は把握できる。

<樋口委員>

アナウンスは、「繋がりをもっと密にしたいというような要望が過去にあったので、今回、有志で、サロンとは切り離して場を設けることになりました」として、希望を募る。

この方法であれば、サロン自体の参加費は無料としてよいと思う。

<壬生座長>

では、サロンは無料として、気軽に参加してもらい、その後懇親会を開催するようになりたい。

他に御意見はあるか。

<樋口委員>

希望なのだが、今回、市民参加の成果や課題等を分析した事業の「みっけ隊」と「景観市民会議」の担当部署の職員のかたには、ぜひ来てもらいたい。市民参加してよかったということを、そういった部署から発信してもらいたい。

<事務局>

来てもらえるように、声掛けを行う。

<壬生座長>

では、声掛けはお願いをする。あとの詳細については、次回の会議の際の決定で間合いか。

<事務局>

スケジュールが詰まっているので、この後、詳細等については事務局と座長・副座長と相談しながら決定をさせていただきたい。

<壬生座長>

では、委員の皆様にはメールで経過を御報告しながら、詳細はこちらで決めさせていただきたい。御意見があれば、メールでお願いします。

3 報告事項

報告事項（1）新たに設置された附属機関等について

<壬生座長>

次に報告事項について、まずは（1）新たに設置された附属機関等について、事務局から説明をお願いしたい。

<事務局>

（資料4「新たに設置された附属機関等に係る協議結果（会議の公開・公募委員の選任についての一覧）」について説明）

略

<壬生座長>

公募された場合に、公募人数と応募者数を入れてもらうようにしたのは、状況がよく分るようになって、良かった。

何か質問や御意見などあれば、御発言いただきたい。

（発言なし）

報告事項（2）市民参加に関係する新しい事業や取組について

<壬生座長>

では、その他の報告事項（2）市民参加に関係する新しい事業や取組について、事務局から説明をお願いしたい。

<事務局>

（資料5「市民参加に関係する新しい事業や取組」について説明）

略

< 壬生座長 >

何か質問や御意見などあれば、御発言いただきたい。

(発言なし)

4 閉会

■傍聴者の意見

< 壬生座長 >

これで、本日の議題は全て終了となる。皆さん、ありがとうございました。
傍聴者の方から御意見をいただきましたかったのだが。

< 事務局 >

先ほどお帰りになりました。

■YouTube, ツイッターの反応について

< 壬生座長 >

では、ユーチューブ・ツイッターの発言状況はいかがか。

< 事務局 >

ユーチューブの中継は7人の方に御覧いただいている。
ツイッターへの反応は、特になかった。

< 壬生座長 >

本日もたくさん議題がありましたが、熱心に御議論いただきました。御協力ありがとうございました。では、進行を事務局にお返しする。

< 事務局 >

本日も、時間をいっぱいに使っていただき、充実した議論となり、感謝している。

先ほども申し上げた通り、我々の市民協働の部署では、新しくポータルサイトを構築したところである。こうしたポータルサイトを活用して、市民参加に必要な情報を、どんどん発信し、ここでの議論も、市民の皆様に分りやすく伝えていきたいと考えている。

また、年度末が近付き、今年度の市民参加推進フォーラムの日程も終わりが近づいているが、公募委員サロンの開催も控えており、そのあとの交流会も楽しみにしておりますので、引き続き、どうぞよろしく願いたい。

本日は、これで閉会と致します。どうもありがとうございました。

以上

